

KY 活動と真の安全管理

広島県土木施工管理技士会
久保田建設株式会社
横 溝 裕 治
Yuuji Yokomizo

1. はじめに

工事概要

- (1) 工 事 名：災害復旧工事
- (2) 発 注 者：神石高原町
- (3) 工事場所：広島県神石郡神石高原町福永
- (4) 工 期：平成22年11月4日～
平成22年12月24日

「もし、事故を起こすと会社が飛んでしまうぞ」これは、社長がよく言われることですが、安全管理を誤れば重大な事故につながることである。この工事現場は幅員2mという道幅が狭く一方通行のため2tトラックの後方侵入による作業現場である。

2. 現場における問題点

工事着手前に、作業員全員の参加による安全ミーティングを行い、工事内容を周知徹底し、KYミーティングを行い起こりうる災害を出し合い、現場での災害対策訓練を行った。

トラックの脱輪、転落、トラックと作業員の接触、挟まれなど、危険予知活動で20個にのぼる危険項目を書き出し、作業員一人一人が目的意識を持ち、主体的に行動できる一人KY活動、作業員全員で行う危険予知活動、不安全行動に対する声の掛け合いをすることで、真の安全管理を迫らなければ、無事故無災害は達成出来ない。

そこで、現場作業所が一致団結し、相乗効果を

高めながら安全に工事を進めることが出来るよういかにして関係者の意識改革を行うかということが課題であった。

(一人KYとは)

- 1) 自分の作業内容を理解し、復唱する。
- 2) 自分の作業内容で危険なポイント、対策を考える
- 3) 少しの時間で、自問自答を行い、作業を開始する。
- 4) 作業内容が変わったときも、順次行う。

3. 工夫・改善点と適用結果

作業者の安全意識の高揚を図りヒューマンエラーをなくす。このことは、全ての現場において当てはまることであり、産業全体の常識と言っても良い。しかし、事故はこの常識的なことが実行されないから起こるのであって、この目標を実現することがいかに難しいかということになる。

そこで、当作業現場では、この目標を実現するための具体的な方策として、作業員一人一人の危険に対する感受性を高め、安全管理に対する主体性向上を目指した。安全に対する取り組み姿勢を浸透させる必要性を強く感じた。

そこで、工事着手前の危険予知・一人KY活動・安全教育を実施し、その後も繰り返し指導教育をして行った。キーワードとして実際に現場で取り組んだ内容について述べる。

- (1) ルールを守ること。
- (2) 自分の身は自分で守ること。
- (3) 不安全行動をしない。

安全管理は一人では出来ない。作業員一人一人の努力によって達成されるものなのだ。一人でも不安全行動をすると事故につながる。ちょっとした隙から生まれるものだ。近道行為、見切り作業、ウツカリやボーッとしたり、ヒヤリハットなどをなくすために、毎日の安全な作業をするために一人一人の責任感と作業に対する主体性に頼らなければならないのである。そして一人一人の行動によって成しえるものである。しかし、現実には性格や価値観、技量や立場も異なった個人の行動を効果的に管理するような都合の良い手法はないのである。

そこで、毎朝のミーティングの時間に順番で、今日の危険予知項目を発言してもらうことにした。

仲間の発言に対する興味を引き出すことにより、参加意識を高める効果があったと思われる。ヒューマンエラー防止のためには、作業に直接従事する作業員の意識も大切であるが、作業員の行動、意識に対し影響力を与える者の安全意識が重要であるように思う。



図-3 危険予知活動

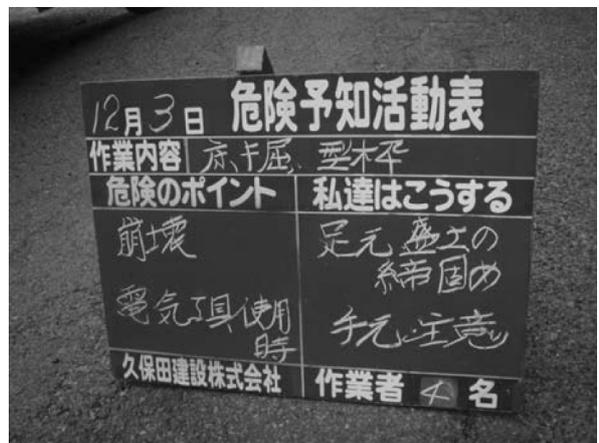


図-4 危険予知活動



図-1 社内安全会議



図-2 現場安全会議

4. おわりに

建設現場は、他作業と比べ施工条件や天候などの自然環境による影響も大きい。また、大型の重機が輻輳する中で多くの作業員が混在して作業を行うため、その危険性は非常に高いと言える。

私は、そうした建設現場での安全管理として最も重要なことは、良い現場風土であると考えている。安全管理は、地道にやらないとその効果は期待出来ない。無災害完工とは、工事に関わる全ての人が、自分は事故を絶対に起こさないと言う大きな目標を目指し、一致団結して取り組み、良い現場風土を作り、無事故・無災害に向かって協力することである。